

建設会社
トップに聞く



基礎から教えるマイホーム

絶対得する業界の常識

現場監督ってなにをする人？

現場監督というと、どんなイメージをお持ちでしょうか？

カンナがけが上手で、器用にのこぎりを扱い、罵も身軽にこなす...そんなイメージを持つてしまつても無理はないのですが、これらの仕事は現場監督の仕事ではありません。

では、現場監督の仕事や役割とは一体どういったものなのか？湯浅社長に話を聞いてきました。

■いい家づくりは現場監督の力量次第

現場監督とはその現場のすべてを取り仕切る責任者です。その役割は大きく二つに分けられます。一つは「現場のチェック」です。工事が工程どおりに進んでいるか、設計図どおりに仕上がっているか、安全は確保できているか、品質は保てているかなど現場の状態を常に確認します。

同時に建築に関する、申請・許認可などの書類作成や、追加工事の資料作成、見積もり作成など現場以外のいわゆる事務業務も含まれます。

もう一つは、施主と職人をつなぐ「仲介」です。施主の意見や提案、質問を職人に伝えるという役割です。

例えば、実際に工事が始まると設計や仕様を変更しなくてはならないことがよくあります。その時に、建築のプロである現場監督が施主と職人の間に入り話をまとめます。その役割をき



ちんちん行うことで「言った言わない」のトラブルを避けたり、建築関係は素人である施主の要望を適切に職人に指示することができます。

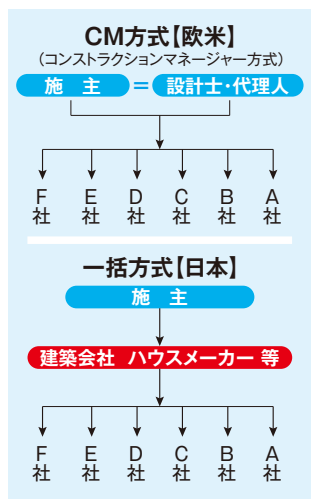
■現場監督は営業マン？

「契約をした営業マンがとてもしいい人だったから、いい家が建てられると思ひ契約しました」というお話をよく聞きますが、ほとんどのハウスメーカーの場合、営業マンは契約までが主な仕事です。

実際に建築を任せられるのは専門知識を有した現場監督です。現場監督は、建築士や施工管理技士といった国家資格を持った人のみが携わることができま

■現場監督をたてない施工方法

日本では建築会社(ハウスメーカーや工務店等)が一括で建築業務を請け負い、施主に代わり各種専門の業者・職人に業務を委託する方法が主流ですが、欧米などではCM(コンストラクションマネージャー)方式が主流です。



vol.77

湯浅建設さんによる

今月竣工の工事

木山製作所柏工場改修工事



このCM方式は、施主(または設計士など代理人)が業者や職人と価格交渉、打合せなどを行います。業者と直接価格交渉などを行うことにより、コストが抑えられるメリットなどがありますが、先述のような「現場監督の役割」を果たす人物が不在ですから、工程や品質等のトラブルが起きやすい状態となります。

また、その責任所在が不明確で、トラブルが起きても誰も責任を取らないという状況になることが想定されます。

それに対して日本での一括方式は、施主は建築会社(現場監督とのみ打合せを行います。建築会社は日ごろから取引のある業者等に委託します。また、万が一起きてしまったトラブルの責任は建築会社にあるので、先述のCM方式のデメリットは回避できます。

本文中で紹介したCM方式は、テレビなどメディアの影響で、近年日本でもこのような施工方法が流行しつつありますが、本文で挙げたようなトラブルも発生していると聞きます。

特に日本の建築は法令や基準がとて厳しく、素人の施主やその代理人が現場監督の代わりを務めるには無理があり、大なり小なりトラブルが発生するのは容易に想定できます。

やはり、いい家を建てるには、現場監督という立場が絶対に必要であることが、今回の取材をとおして理解できました。

【取材協力】株式会社湯浅建設 湯浅健司社長



地域に根差した総合建設業を目指して創業60年

一貫誠実

株式会社湯浅建設

千葉県知事 登録 第1-1203-7620号 / 千葉県知事許可(特-22)第1298号

湯浅建設 検索

月刊ハロー！取材記事のバックナンバーも掲載中！

見積無料!
お気軽にお問い合わせ下さい!

TEL.047-387-2281 (代表)

〒270-2253 千葉県松戸市日暮5-25
http://www.yuasakensetu.co.jp/

